今年のぼたんばよいぼたん、お耳をからげてすつぽん〳〵もう一つおまけにすつぽん〳〵

お子さん達も又私達も心地よい調子に、お隣の人と手を取り合つてしまひます。

何人でもよろしい。一人鬼になる人は何處かはなれた所にゐる。他の者は手を取あひ、

歌を歌ひつゝおもしろく遊んでゐる。

そこへ鬼が「入れて下さいな」、他者「いや」鬼「川へつれていつてあげるから入れて」他者「カッペが出るから嫌」鬼「それぢやあ、海へつれていつてあげる」他者「海坊主が出るから嫌」鬼「それぢやあ山へつれていつてあげる」他者「山坊主が出るから嫌」鬼「家の前で天秤棒でぶつから」「それでは入れてあげる」、そこで鬼も入れて今年のぼたんは……。と遊ぶ。途中鬼が「私もう歸るわ」、他者「どうして」鬼「おひるの御飯だから」他者「おひるの御飯のおかず何に？」鬼「へび」他者「生きてるの？　死んでゐるの？」鬼「生きてゐるの」

他者「ちやさよなら」鬼「さよなら」と鬼が二三歩歸りかけると、皆んなで「誰かさんの後に蛇がゐる、誰かさんの後に蛇がゐる」鬼「私？」他者「ちがふ」「誰かさんの後に蛇がゐる」と二三回、同じ會話を繰返して後、「私？」と聞かれたら「さう」と答へ、鬼は追ひかけ、鬼ごつこになる。又つかまへられたらその人が鬼になるわけです。この遊びに、はさむ言葉に、又深く言へば思想に、何んなものかと思はれる節もあり、私も氣づかひつゝ致しておりますが、それは言葉の節なのだ遊びの文句なのだと單なるものに考へればよろしいでせう。

あゝぶくたつた煮えたつた（鬼ごつこ）

鬼を中心に何人でも多勢でも結構です。手をつなぎ

あゝぶくたつた煮えたつた
煮えたかどうだか食べてみやう（たべる眞似をする）まだ煮えない。

反復して　もう煮えた。

隣りのおばさん時計は何時？

夜中の十二時、おばさんのお名前なんといふの？　柳の下の大入道といひながら、おひかけ鬼ごつこになるのです。

何れも昔からつたわつてゐるもので皆様もよく御存知の事と存じます。或はその土地々々により言ひ方も異になるでせう。唯御記憶をよみがえらせるために加へました。

遊　戯

古澤靜子

遊戯や競技に絶好の季節。大いにはね、高らかに歌ひませう。今度は二人で組になるものをいたしました。共同動作になると責任重大になつて參ります。九月及十月むきのもの、五ツ六ツとり出してみました。

『かけつこ』　繪本唱歌アキノマキ所載

隊形、圓形

「赤バウ、白バウ」　二呼間に一回、右(左)手でお隣りの左(右)肩を輕くたゝき、その動作を右左交互に行ふ。

「カケッコダ」　各自兩肘を曲げて腰にとり、駈足で自分の廻りを一廻りする。

「裏ノ畑デカケッコダ」　同樣兩肘を曲げて腰にとりカケッコの用意をして、圓周に沿ひ、右へ二呼間に四歩づゝ駈足で駈ける。

カケッコであるから特に力を入れ、兩臂をよく振り、膝も高くあげて勇しく駈る。

「赤フレ白フレ」　全生圓心を向く

赤フレで二拍手、白フレで二回足ふみ。この動作を二度繰り返す。この應援は、皆一齊に聲を揃へて元氣よく、拍手と足踏みをする。

『ヒヨコ』　日本幼稚園協會發行　幼稚園唱歌選集所載。

隊形　ヒヨコ。一羽圓内に入る。

親どり。全生連手して圓形を作る。

親どりの動作。

「ヒヨコが庭でピヨ〳〵〳〵ピヨ〳〵〳〵」。全生、圓形のまゝ坐り、元氣よく歌ひながらリズムに合せて拍手する。

「ヒヨコの母さん」優しい親鳥さんの大きな羽を擴げながら、卽ち兩手を大きく伸ばして、横に擧げながら立ち上る。

「コッ〳〵〳〵」兩手を横に擧げたまゝ、輕く首を右左右と振る。

「お腹がすいたとピヨ〳〵〳〵ピヨ〳〵〳〵」立つたまゝ、再びリズムに合はせて拍手する。

「御飯を食べよとコッ〳〵〳〵」右手をぐんと伸ばし、圓内で遊んでゐるヒヨコを招く。

ヒヨコの動作。

ヒヨコはその間、圓内で自由表現(例へば上體を前傾して兩手を後に伸ばし、踵をたてゝ歩いてヒヨコの動作をしたり、お腹がすいた時は、前かゞみになつてお腹をおさへたり、兩羽を擴げてスキップでとんだり、又しやがんで餌を食べる等)に依り、好きな動作を行ひながらとび廻る。

そして「御飯を食べよとコッ〳〵〳〵」と招かれた時、都合のよい親どりのところへ行き、一曲が濟むまでの間に、そのとりと交代する。ヒヨコは一羽に限らず、二羽でも三羽でもよい。かうして何回もヒヨコは交代しながら面白く圓内を遊び廻る。

『ブランコ』　日本幼稚園協會發行　幼稚園唱歌選集所載。

隊形。AB二人で向き合ふ。

一、二節共、同じ動作。

「こぎませう〳〵ブランコを」ABの二人が仲よく向き合つて兩手をとり、片足を前出し、二呼間に一回づゝ、交互に上體を後に倒す。卽ちAがBを後方に押すと共に、Bは兩足を固定したまゝ上體を後方に倒す。次にBが押してAが後倒する。と云ふ樣に、この動作を交互に行ふ。AもBも、しつかりと兩足を地面にふんばつてゐないと、ブランコは壞れてしまひ、役に立たなくなる。

「遠くお山が見のえるまで」二人共、右手を握り、その手をぐんと

伸ばして車輪の樣にくる〳〵廻る。遠くのお空やお山を見ながら。

『松ぼつくり』　日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形

AB形。の二人が向き合ふ。

「松ぼつくりが」—Aの動作、Bはそのまゝ立つてAの話を聞く。

二呼間で兩掌をふくらまして合はせ、松ぼつくりを作り、次の二呼間、兩手を下ろして體側につける。

「あつたとサ」—Bの動作。Aはそのまゝ立つてBの物語りを聞く。BはAと同樣の動作をして松ぼつくりを作る。

「高いお山に」—Aの動作、Bはそのまゝ。

高い〳〵お山にありました。と云ふ樣に、右手を二呼間にづゝと上に伸ばして高いお山を指さし、次の二呼間で手を下ろす。

「あつたとさ」—Bの動作。Aはそのまゝ。

Aと同じ動作を行ふ。

「ころ〳〵ころ〳〵あつたとさ」二人共兩手を胸にとり、體を小さくして、一呼間に一歩づゝころ〳〵と後退する。但しあまり遠くへ行くと元の位置に戻れなくなつてしまふ。

「お猿が拾つて」　二人共、「お猿が」で、しやがんで兩手を横にとつて床を叩き、「拾つて」で拍手。

「食べたとさ」　兩方から走り寄り、「サ」の時、兩手を伸ばして、AはBの、BはAの肩にのせる。

歌詞の通り可愛らしい動作である。はじめは、二人でお話をしてゐる樣に優しく。ころ〳〵轉ろところは。輕く快からに行ひ度い。

『ウサギ』　日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形、同樣二人向き合ふ。

「晝寢してゐて龜さんに」　向き合つて腰を下ろし、兩手を枕にして靜かに目を閉じて休む。

「負けた兎は何處にゐる」　二匹の位置交換を行ふ。しやがんだまゝ、兩手を振り、二呼間に二歩づゝ歩いてAはBの位置にBはAの位置につく。

「月の御殿にとんでつて」　再びABの位置交換。兩手を上に擧げて長い耳を出し、二呼間に一歩づゝ兩足とびで最初の位置に戻る。

「ペッタンお餅をついてゐる」　Aはしやがんで兩手を前に圓く伸ばして臼を作る。

Bは兩手を高く振り上げ、力を入れてその臼でお餅つきをする。二呼間に一度つくのであるが、一呼間目に杵を振り上げ、二呼間目に打ち下す樣にする。四回つく事になる。

『兵隊ごつこ』　日本幼稚園協會發行　幼稚園唱歌選集所載

隊形。

全體をA組、B組に分ける。

動作は一、二節共同じ。

「廣い野原に赤と白、兵隊ごつこだ」各組一列縱隊に並び左手を前に出して馬のたづなをとり、右手を上に擧げて指揮しながらスキップで前進。その時落ちない樣にたづなをしつかり握り、右手

は高く振りかざす。正しく竝び、隊伍を整へて前進する、二組の間隔を適當に保たなければいけない。

「トテチテタ」二組共、止まつて内側を向き、向き合つて銃を打つ。卽ち、ねらひを定め兩手を揃へて前方に突き出す。

「チテチテタ」そのまゝしやがみ、「タ」の時に兩掌をパッと開く。

終始勇敢に、然し各組共、整つて前進し、又二組があまり入り亂れない樣注意する。

觀察

清水光子

季節の果物

今を酬の秋の自然は澤山の果物を贈つて呉れる。以前は色とりどりの美しい果物が店先に山と積れた時であるけれど今はさう數に於いて豐かにといふわけにはゆかない代りに果物についての話題が何と豐かになつた事か、南方新領土の、種類にしても量にしても大きい豐かな産物の一つとして、身近かにある果物を觀て描いたり、切紙したりし乍ら子ども達と話し度い、そんな時見た事のない子どもの多いことだから繪があれば見せるのもよいだらう。又何かの機會に手に入つたらさつそく見せてやり度い。感謝の心持と一しよにといふことは斯ういふ時いつもいふまでもない事。菊池先生が誘導保育の項で書いていらした平面的な果物店にしても面白い。二三種類づゝ時々切紙で果物を切り、お皿やかごの中に入れたやうにはりつけてゆく。一寸だけ糊をつけて置いてすぐとれるやうに、あとで子ども達銘々の帖面にはりつけてもよいであらう。又立體的に粘土で作つても紙粘土で作つても面白いが實物とあまりかけ離れた大きさにしないでよくみて較べてするやうに導き度い。

稻、刈入れ

田植の頃からずつと見てゆける樣な幼稚園であると本たうに稻も、作る勞苦もわかるわけであるが都會地だつたら中々機會がない。遠足など機會ある毎にこれが稻だといふことをよく見せる。そしてその稻は植ゑるのから取入れるまでどんなに苦勞があるかといふことを具體的によく話してきかせる。例へば廣い田圃の泥の中へ一束づゝ植ゑるのであること、暑い〳〵夏、カン〳〵日でりの中に草を取つたり蟲をとつたりすること、など。殊更教訓的にだからお米を大切に——といふ話し方でなく具體的な話をしてきかせ度い。そしてそんな苦勞の揚句、よく出來たお米を前にしてのお百姓さんの喜びはどんなに大きいか、又自分達で作つたお米がこんなによく出來たのもみんな神樣のお蔭だといつてお祭りすること、まづ神樣に捧げ、召上つていたゞくのだといふことなどよく實つた黃金の波を前にして、刈入れてゐる所を前にして話してきかせ度い。

木の葉の紅葉

幼稚園の木の葉がほんの一晩のうちに紅葉してしまつたといふやうなこともあるこのごろ、毎朝落葉はきを子ども達と樂しんで